

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 中東の戦後七十五年 (四)

プロローグ(四)

四. ヨーロッパとアジアをつなぐ中東(二―三)



ただ彼らが「アジア」と名付けた地域はユーラシア大陸の大きな部分を占めている。緯度で言えば西経十度（ポルトガル）からベーリング海峡の東経百八十度まで地球を半周するユーラシア大陸のうち、ヨーロッパの東端イスタンブールは東経三十度である。つまりユーラシア大陸の六分の五はアジアであり、ヨーロッパはわずか六分の一にすぎないのである。

したがってヨーロッパ人自身もアジアを一括りにできいくつかの地域に分けた。それは彼らから見た地理上の遠近というごく単純かつ一方的な区分であった。ヨーロッパから近い順に近東(Near East)、中東(Middle East)、南アジア(South Asia)、インド亜大陸)、東南アジア(South East Asia)そして極東(Far East)と名付けたのである。極東(Far East)とは「東の果て」のことであり、聞きようによつては極東の人々に対してずいぶん失礼な言い方ともいえる。(仮に立場が逆になっていけば、英国、フランス等は西の果て「極西諸国」と呼ばれていたかもしれない！)

ともかくボスポラス海峡を渡つてすぐが「近東」。現在のアナトリア半島一帯であり、さらに東のレバント(現在の

シリア、レバノン)及びイスラエル、イラク、イランあたりまでが「中東」である。但し近代史では「近東」と「中東」が一体化して「中近東」と呼ばれ、さらに現代では単に「中東」の呼称が一般化している。そして中東の向こうにあるのがインド、パキスタンの南アジアである。

(続く)

荒葉 一也

E-mail: Arehakatzyai@gmail.com